

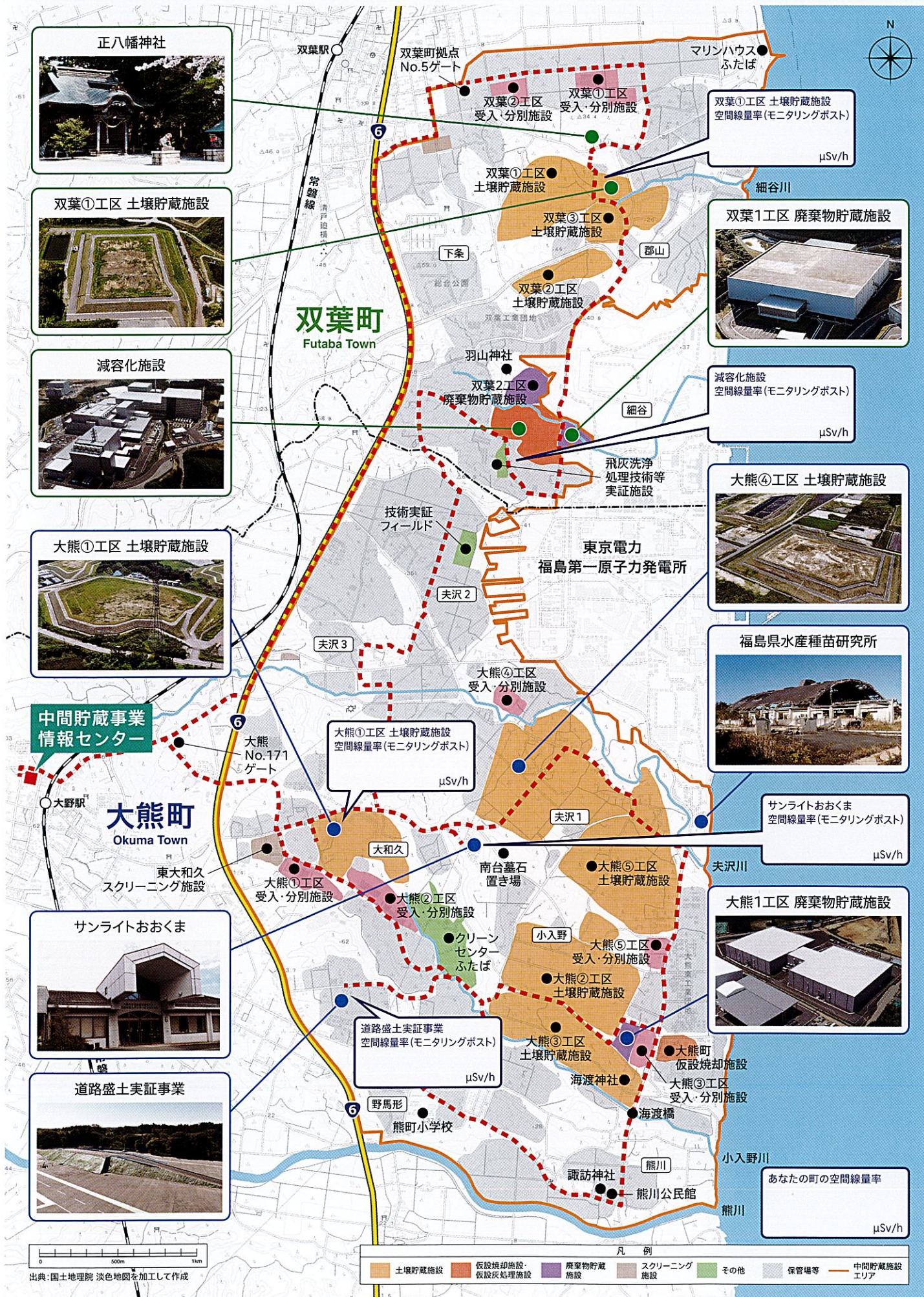
# 中間貯蔵事業 情報センター

## 見学の手引き



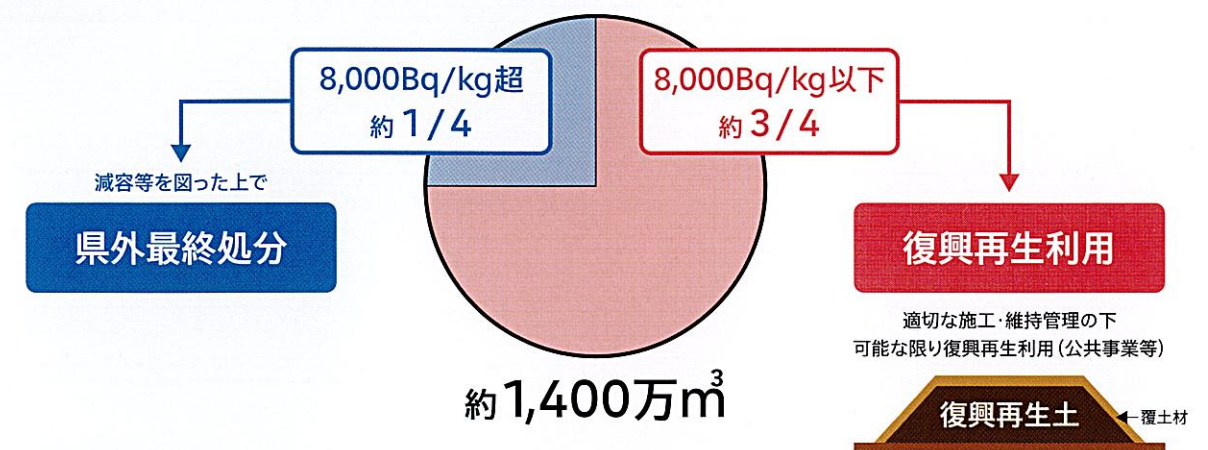
中間貯蔵施設は、福島県内の除染で発生した  
土壌や廃棄物を最終処分するまでの間、安全  
かつ集中的に貯蔵するための施設です。  
ここに貯蔵されている除去土壌等は、2045年  
までに福島県外で最終処分することが法律で  
定められています。

# 中間貯蔵施設の全体図



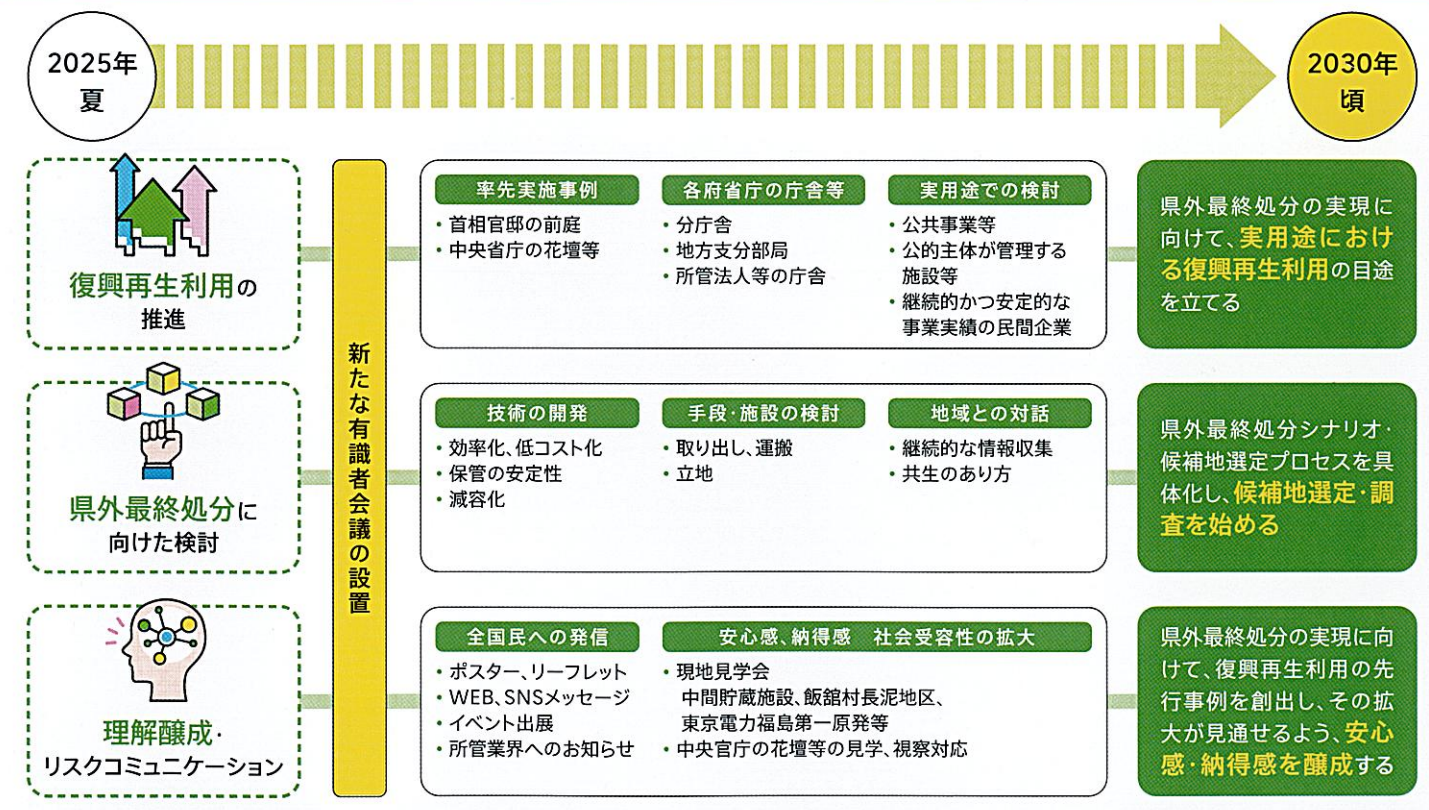
# 除去土壌等の復興再生利用と福島県外最終処分

福島県内の除染作業により発生した除去土壌の量は東京ドーム約11杯分(約1,400万<sup>3</sup>m)にも及び、福島県外での最終処分の実現に向けては、処分量を減らすことが重要です。

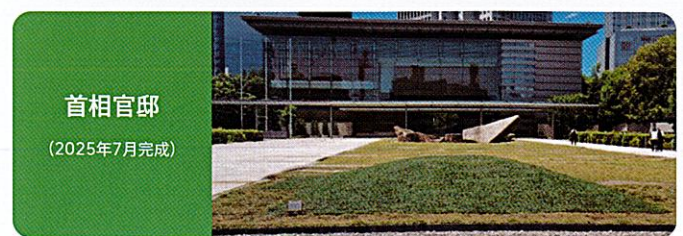


「8,000Bq/kg」と「1mSv/年」について  
 復興再生利用で、最も放射線の影響を受けると考えられるのが工事業者です。  
 工事業者の追加被ばく線量が、国際的な安全基準である年間1mSvを下回るように計算されたのが、1kgあたり8,000Bq以下の土壌という基準です。

# ロードマップ ~県外最終処分・復興再生利用の道しるべ~



# 復興再生利用の取組事例

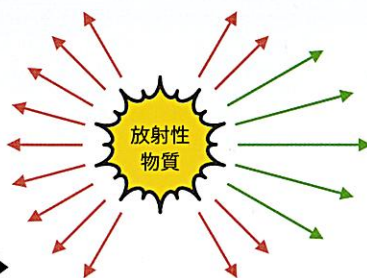


# 放射線の基礎知識

## ベクレルとシーベルト

### 【ベクレル(Bq)とは】

放射性物質が、1秒間に放射線を放出する量です。放射能の単位として使われます。



放射性物質が放射線を出す量▶

### 【シーベルト(Sv)とは】

放射線が、人の身体に与える影響の強さを表します。被ばく量の指標として使われます。

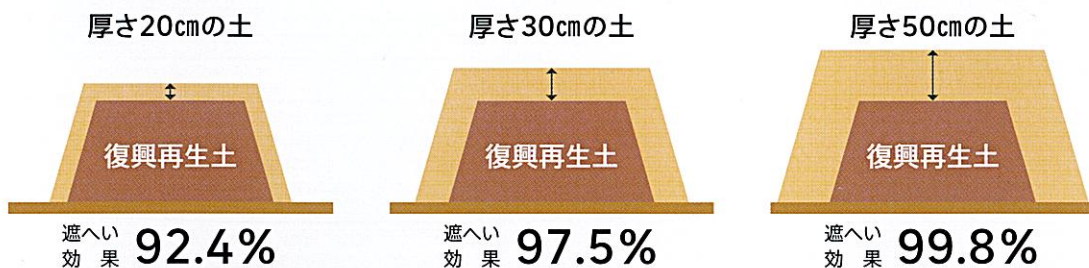


◀人に当たる放射線の量

## 被ばく線量の比較



## 覆土による遮へい効果



## お問い合わせ先

# 中間貯蔵事業情報センター

中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO)  
 ※中間貯蔵・環境安全事業株式会社(JESCO)は、法律に基づき、国等から委託を受けて中間貯蔵に係る事業を行う特殊会社です。

- 開館時間 9:00~17:00(最終入館16:30)
- 休館日 毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始(12/29~1/3)
- 入館料 無料
- お車でお越しの方  
常磐自動車道 大熊ICより約4分
- 電車でお越しの方  
JR常磐線 大野駅より徒歩約3分

住所: 〒979-1308 福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116番5  
 CREVAおおくま(大熊町産業交流施設)1階  
 TEL: 0240-25-8377 / FAX: 0240-25-8378  
 メール: johocenter@jesconet.co.jp

